# 環境科学科

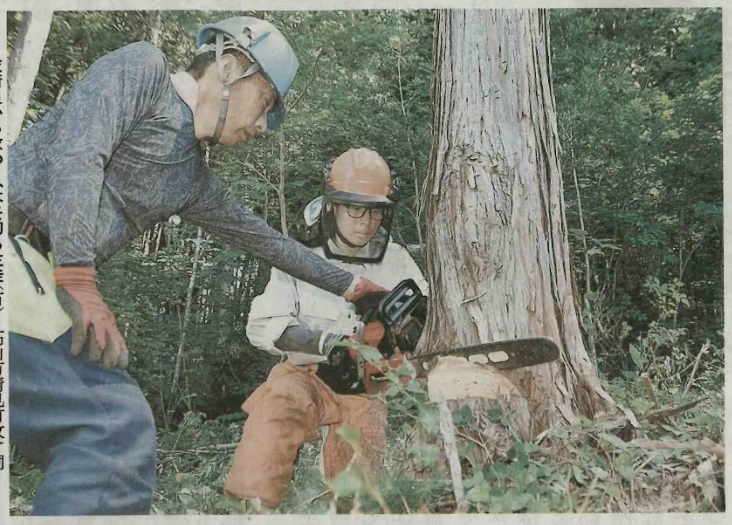
# 実習林で伐採に挑戦！

## 実習林で大木を山から公道へ

## 飛騨高山高生が伐採挑戦

高山市清見町牧ケ洞にある飛騨高山高校の実習林で、環境科学科の生徒7人が木の伐採と搬出に挑戦した。新型コロナウイルス禍で活動が制限されていたこともあり、大規模な伐採は初めて。20メートルを超える大木に手こずりながらも、ヒノキ2本を切り倒し、山から公道まで下ろした。

（安井真由子）



技術員から教わり、木を切る生徒（右）＝高山市清見町牧ケ洞

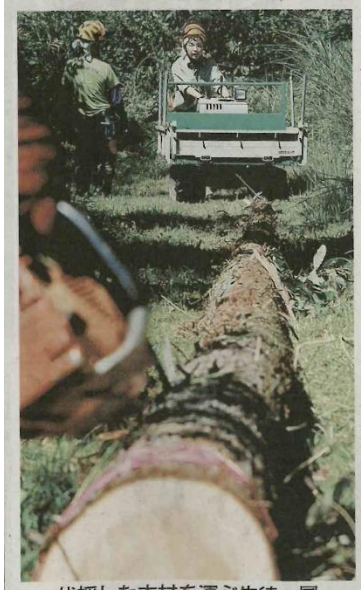
同学科森林コースには、森林や河川に関わる技術員などを目指す生徒が在籍する。コロナ禍で十分に実技演習が行えなかったため、飛騨高山森林組合の技術員から教わる機会を設けた。

生徒は技術員と山に入り、対象の木に他の枝やつるが絡まっていないか、近くに電線がないかを確認。待避場所を決めてから、倒したい方向にチェーンソーで「受け口」と呼ばれる切り込みを入れた。最後に反対側からくさびを打ち込むと、木はミシミシ音を立ててゆっくりと倒れた。

### コロナ下の演習不足補う

3年の森本明日香さん（17）は「チェーンソーが重く、水平を保つのが大変。どこまで刃が入っているか分からない」と受け口を入れるのに苦戦。木が倒れると「思い通りの方向に倒せて達成感がすごい」とすがすがしい表情を見せた。

木は枝を落として運搬車にワイヤで固定し、実習林から運び出した。木材は組合に寄贈され、現在建設中の組合新事務所で玄関部分の柱に使われる。組合の担当者は「組合に就職する生徒も多い。学校とのつながりになれば」と話した。



伐採した木材を運ぶ生徒＝同

岐阜新聞社　　令和５年７月２２日（日）